

三村靖行議員

8月大雨による災害対策本部のあり方に問題はなかったのか

水害対策について

三村 8月大雨は、3年前の総雨量と同等であったにもかかわらず浸水被害はなかった。ダムが事前放流を行ったことが大きな効果だと思いが、どう認識しているのか。

政策監 事前放流は、平成30年7月豪雨のちに締結された協定によって行われた。数字的に示すことはできないが、放流量の低限など一定の効果があつたものと考えている。

三村 8月大雨で高梁地域に大雨警報が発表され、市は災害対策本部を立ち上げ避難所を開設したが対象とならない地域があつた。なぜ一部の地域では開設されなかったのか、その基準を問う。

政策監 市の地域防災計画の風水害の取り決めがある。土砂災害な

ど非常に危険となった時また災害対策が必要な時、雨量、河川水位、ダムの放流量など様々な情報により総合的に判断している。

三村 避難所を開設したのは高梁川、成羽川沿いの地域だけで市域全体は対象とならなかった。大雨警報は市域全体に出されており、災害は河川の氾濫だけではなく、土石流、家屋への浸水、ため池の決壊、農地の崩壊などあらゆる被害も想定される。災害対策本部が設置されているのに、一部の地域市民センターは閉まっていた。これが正解なのか。

市民生活部長 地域市民センターは、緊急対応できる体制を取っていた。今後、起こり得る災害の情報収集も大切なことであるので、地域市民センター職員の防災体制を明確に位置付けていきたい。

石部 誠議員

相談者に寄り添って多様な発想で解決してほしい

生活保護制度について

石部 コロナ禍で困窮されている方が増加している。国は「生活保護はためらわずにご相談ください」とあるが、市は最後のセーフティーネットとして機能しているのか。また親族への扶養調査については、制度内容を把握されているのか。

健康福祉部長 生活保護は国が生活困窮の程度に応じて最低限度の生活保障をしているもの。扶養調査は厚生労働省からの通知で改定されることは把握している。

石部 市内の保護世帯で住宅設備の不具合や、急な怪我で病院の利用ができない等の事案があつたが、多様な視点で解決すべきでは。
健康福祉部長 緊急時の対応は休日でも関係機関と連携し、他の制

度や支援策の活用により可能な限りの対応を心掛けています。

石部 市内の加齢性難聴者の把握や相談はないのか。また調査の必要性があると思うが、いかがか。

健康福祉部長 加齢性難聴者の実態は把握できていない。また、市独自の調査は考えていない。
石部 難聴は人前に出るのがおっくうになり、鬱や認知症の原因、災害時避難の障害になる。高齢者の社会参加、元気な高梁市をつくるために市として検診や補聴器購入補助制度を設けてはどうか。

健康福祉部長 国が難聴改善による認知機能の低下予防について研究を行っている。その結果に基づく動向も踏まえ、支援の範囲等を研究していきたい。

川上博司議員

行政手続きの効率化に向けた取り組みはどのようになっているのか

押印の廃止について

川上 中央省庁の行政手続き文書の押印が廃止されていくなかで、本市の行政文書において、何と何が連動して廃止できるのかなどの押印廃止対象リストの洗い出しを行った結果、どのような状況になっているのか。また、市単独で判断するものが約570程度あるとのことだったが、どのような見直しを行ったのか。

総務部長 規則や要綱等によって市が独自に押印を求めている行政文書は約1800種類ある。そのうち9割の約1600種類については来年1月末までに押印を廃止できる見込みである。年内に規則や要綱等を改正し、年明けにも押印を廃止するリストを示し、申請が増える年度末に間に合うようしつかり進めていく。

企業版ふるさと納税について

川上 企業版ふるさと納税では、企業が国の認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して寄附を行った場合に、「損金算入による軽減効果（寄附金額の約3割）」と合わせて、寄附金額の6割がさらに法人関係税から税額控除され、企業は最大で寄附額の約9割が軽減される。本市の持つ幅広いネットワークと人脈等を生かして、企業版ふるさと納税を強力に推進すべきではないか。

市長 企業版ふるさと納税は平成29年から実施しており、奨学金事業に使うため現在560万円を基金として積んでいる。今後、市総合計画の重点プロジェクトに対し寄附をしていただくよう積極的に推進していく。

森上昌生議員

吹屋観光、さらには高梁市の観光施策について

旧吹屋小学校の親水公園について

森上 親水公園の計画については市民とのワークショップで決定されたとのことだが、その内容は。

産業経済部長 吹屋地域の方々と意見交換、ワークショップを重ねながら、プール跡地の整備計画を作成。現状は整備が必要であるが、プールは子どもたちが使っていた学校施設としての形を残すべきとの結論に至った。

森上 市のワークショップはあらかじめ市が予定した流れに沿って進められている印象を受けるが、今回はどうだったのかという疑問を感じている。そこでこの親水公園が旧吹屋小学校の校舎保存とどのように整合性を持つのか、さらに復元された校舎がプールに映り込む景観を観光客に楽しんでもらうというが、このために1億数千

万の予算を投じる必要性があるのか。校舎の建築年代と、プールの設置時期との歴史的整合性をどう考えるのか。

産業経済部長 校舎は明治時代に建築されたものだが、昭和20年代に改築された姿を復元した。校舎と周辺景観は一体として校舎の魅力を生かすために整備をするもの。地域住民、観光客の交流、屋外コンサートやマルシェの開催など集客を図る活用を考えている。

吹屋町の多目的広場について

森上 吹屋の観光客の受け入れ態勢に不足を感じるが、吹屋町の多目的広場を駐車場として整備する考えはないのか。
産業経済部長 吹屋地区街なみ環境整備計画の中で、多目的広場を含めた吹屋町駐車場の整備計画も盛り込んでいる。